北から南から
岡山発・夢追い人生

泉谷淑夫（高23回）

私の住む岡山県総社市は涙でねずみの絵を描いたという伝説で知られる画聖・雪舟の生誕地であり、彼が少年期に修行した宝福寺は我が家の近くにある。絵をライフワークとする私にとって、このような縁は嬉しいものである。隣の倉敷市には大原美術館もあり、創作意欲を刺激する環境は整っていると言ってよい。

住み慣れた神奈川県から岡山県に移ったのは、岡山大学へ赴任したためである。教官公募に応募したところ、運良く採用され、2年目からはこちらにアトリエを構えることとなった。これはまったく予想だにしなかったことで、だから人生は面白い。現在は大学生相手に絵を教えたり、美術鑑賞へと誘ったりしているが、それまで教えていた中学生とそれほど変わらない彼らを見て思うのは、受験勉強中心の高校3年間では、人間的成熟はあまり果たされないということである。

私の教職の振り出しは、平塚の大住中学校であった。そこで8年勤務し、江南高校へも多くの生徒を送り込んだ。その後2年間の大学院研修を経て、横浜国大の附属横浜中学校の教壇に立った。いわば母校への恩返しである。ここでは9年間を過ごしたが、合わせて17年間の現場での教員生活は、私にとって今もかけがえのない財産である。

この期間の悩みと言えば教職と画業の両立に苦労したことである。どうしても公務が優先されるので、絵を描くのは最後になる。睡眠時間を削ることで何とかしのいでいたが、不思議と教職も画業もやめようと考えたことは一度もなかった。これをもって天職と言えるかどうかはわからないが、教職と画業の二足のわらじが自分には合っているのか、そんな私を神様も見放さなかったようである。

大学に移ってからは一挙に悩みは解消した。最初の5年間で長年の課題であった自分なりのメチエ（手法）が固まり、その頃から全国公募のコンクールでもグランプリや準グランプリを獲得できるようになった。集中と継続が夢を手繰り寄せることを実感したものである。その一方で自分ではまだ若いつもりでいたが、所属している公募団体の一陽会では委員に押され、岡山県美術展でも審査員となり、いつの間にか後進を育てるべき年齢になっていたことを自覚しないわけにはいかなくなってきた。

私の絵のテーマは一種の文明批判であり、この20年は羊をモチーフとした『楽園の寓話』という想像上の世界を展開している。かねてより高校時代の私を知っている人たちにそれらの絵を見てもらいたいと思っていたが、一昨年の横浜高島屋の個展でそれが実現した。前年に33年振りの同期会が開かれ、旧交を温められたことが伏線であるが、恩師の柳田先生との記念撮影や、親友の家族との会食など、懐かしい時間を過ごさせてもらった。

今年は20回目となる個展で2冊目の作品集作りの準備に追われそうであるが、その前に2月から3月にかけて伊勢神宮の美術館で開かれる企画展『月・歌会始め御題に寄せて』に出品するので、お伊勢参りがてら、私の描いた月の絵を見ていただけたら幸いである。

筆者

個展会場にて（筆者左）

第20回 泉谷淑夫個展
とき　平成19年10月31日～11月6日
ところ　横浜高島屋美術部

風花

松原　豊（高9回）

雪嶺の重なり合ふてはるかなり
風花や帽子嫌ひの妻とゐて
桃色の赤子の吐息日脚伸ぶ
鱧食ふて京の暮しに慣れてきし
秋天に百の塔あるプラハかな
橡の実や裾ひるがえす修道女
八重山に星連なりて年暮るる

（松の花同人）

会員だより

高女18回

私たちは平塚高女の第1回生が卒業された年に生まれました。

私たちの会は荻田先生が漢詩から『桃夭会』と名付けて下さり、各地区持ち廻りで楽しい集いを重ねてまいりましたが、古稀寿の祝をして、一応の区切りとし、その後は友の会として毎年4月の第4日曜を例会としてまいりました。

今年はグランドホテル神奈中に20名の集まりとなり、近況やら欠席の友の便り、腰や膝の痛みに花が咲き、出席できる幸せを互いにかみしめました。会って前向きに生きるパワーをいただける果報に感謝しつつ、なつかしい校歌『阿夫利のみやま富士の雪…』を力いっぱい歌い、来年を約してお開きとなりました。

山口久子記

高女19回
傘寿を祝う

毎年同窓会を開いていますが、今年も6月1日に山本知子先生をお招きして、30名が茅ヶ崎の阿部浅本店に集まりました。

昭和19年3月、卒業式直後、髪を束ね、モンペと制服の上衣で在校生が見送る中を三列になって慌ただしく校門を後にした日が鮮烈の思い出で、いつも話題となり時代の流れを感じます。

今年集まった30名も体調の不安こそありますが、傘寿の紅白のおまんじゅうを前に和やかな歓談に時を忘れました。90歳になられた山本先生に逆に励まされたりと、最後に校歌を歌い、再会を約してお開きとなりました。

幹事

高女21・22回

終戦直後に卒業した私達は毎年、各地にてクラス会を行って参りました。今年は茅ヶ崎の松籟庵にて行いました。本年は私達に於いては「古稀寿」となる記念すべき歳となりますが身体的な事情で出席者は年々少なくなってまいりました。

しかし会が始まるや会話ははずみ晩春の一日を少女時代に引きもどしていました。

ずっと前のクラス会の時、荻田先生のお話で「戦時中、何も授業をしなかったのに社会に出て立派に活躍してくれていて嬉しい。」先生の愛に包まれて私達は現在も集うのです。浅野和枝記

高5回

このところ隔年開催が定着した同窓会は、5月20日グランドホテル神奈中で、恩師7名、会員68名の出席を得て開かれた。

米寿を過ぎた先生方のご出席も毎回多く、最長老の朝野先生には、共学1回生の故をもって必ず出席を頂いている。感謝。ご挨拶は相変わらず飾り気はないが、往時を彷彿とさせられる口調で元気をいただける。高橋先生の「ウォーキングとシューズの効用」の保健体育、井上先生の「木俣修の校歌裏話の文学講座」など、昭和25～26年当時にタイムスリップ。楽しかった学校生活の思い出に花が咲いた。

今回欠席の返事には、ご両親・つれ合いの看護、本人の体調不良と、加齢と共に苦労している人の多いのを感じた。次回を楽しみに、元気な再会を約して散会した。

木島俊雄

高6回　3年9組クラス会

70歳になったのを記念して11月9日、グランドホテル神奈中「松風」で、クラス会を行いました。

1年の担任の小瀬高治先生と、3年の担任の山本武雄先生を囲んで、15人が楽しいひと時を過ごしました。

お互いに歳をとりましたが、それなりに元気で、次回の大山で行うクラス会を楽しみにお開きとなりました。

文責　柳田宜子

高12回

6月10日（土）1時より グランドホテル神奈中に先生8名、OB41、OG44の93名が4年ぶりに集い、司会の柳川君の開会の辞、柴君の世話人代表の挨拶の後、卒業後初めて遠方より参加してくれた雨沢君の発声で乾杯。ご参加いただいた石野道男・宇佐見龍郎・鈴木総一・秦迪也・吉沢貞子・近藤君江・嶋津昭二・松永幸夫の諸先生の紹介の後は会食をしながらの歓談に全員が和気あいあいでした。

市川君の音頭で校歌を斉唱しました。2次会へは先生5人を含めて66名が参加し、カラオケやダンスに興じ、大いに楽しみ心残りの友は3次会へと、土曜の夜を楽しみました。

北野正俊（文責）

東京支部
「OBが健康講演」

6月24日（土）新宿駅ビル8Fにて、小瀬・嶋津（昭二・智恵子）・秦・吉沢・村上の恩師と中瀬同窓会長・朝野校長（高19回）をお迎えし、桐山副支部長と同期の梶浦一郎農学博士の「温州みかんの生活習慣病予防効果」の講演で幕を開け、田中副支部長の司会で懇親会が進行。古木支部長の開会挨拶と役員紹介、中瀬会長の挨拶、朝野校長の母校紹介、出席最年長田沼さん（高女20回）のご発声で乾杯。

宴も進み、校歌、応援歌、数え歌の斉唱。「フレーフレー江南」のエールは元東大応援団の梶浦君が見事に締め、川村副支部長の閉会挨拶、記念写真配布で散会。

末筆ながら、ご寄付くださいました来賓・会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

古木光義記

テニスとともに八十五年

花輪（小泉）紀子（高女14回）

嫁いだ地が、幸いにも軟式テニスの盛んな地でしたので、ずっとテニスをし続け、全日本レディース・ソフトテニス大会に出場し、「明治・大正会」にも、夫をともないずっと出場していました。夫亡き後、3年ほど休みましたが、今年は懐かしい郷里、平塚とのことで出場し最高齢の85歳で、表彰を受けました。

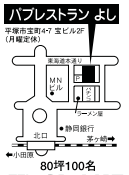
これも在学中の5年間、テニス部で学んだお陰だと、スポーツの盛んだった母校を誇りに思い感謝しております。これからも、テニスを友に、続けるつもりです。

テニスコートにて

同窓会よりのお知らせ！
30年会費の納入の件、回数の同期会の案内や掲載する記事に関する質問等、なんなりとお問い合わせ下さい。
総務担当
副会長
持田　修（高13回）
TEL 23―5723

タクシーは24時間OKの
0120-44-0006
TEL.0463-31-0006
江南交通㈱
私たちのモットーは
笑顔とまごころのサービスです
鳥海衡一（高26回）

不動産登記・商業登記・簡易裁判所訴訟代理
司法書士　米山利明事務所
〒259-1315 秦野市柳町1丁目15番2号
TEL.0463-89-3038
FAX.0463-87-1926
米山（飯塚）利明（高27回）

同窓会にご利用下さい
1次会 4,200円（税込）
飲み放題・食事（8品）・時間／3時間
（＋600円でお寿司が付きます）
2次会 2,100円（税込）
焼酎・ウィスキー・ソフトドリンク飲み放題
スナック付・時間／3時間
※1・2次会とも10名様に付き1名様サービス
宮代真平（高13回）
パブレストランよし
平塚市宝町4-7 宝ビル2F（月曜定休）

80坪100名
平塚駅前 パブレストランよし TEL. 21-4417